



Open the Medical Frontier

 **COOPDECH**

Corporate profile

 医療社会を未来する——
大研医器株式会社

〒541-0045 大阪市中央区道修町3丁目6番1号
TEL:06-6231-9901(代表)
<http://www.daiken-iki.co.jp/>



この報告書は、再生可能な植物油
インキを使用しています。

 医療社会を未来する——
大研医器株式会社

我々は、COOPDECH(クーデック)ブランドのもと、医療現場に革新をもたらす数々のオリジナル製品を開発してきた研究開発型の医療機器メーカーです。医療現場から寄せられる「声」を最重視しながら、特許に裏付けられた最先端の製品を多数提供し、医療を通じて社会貢献しています。



「COOPDECH(クーデック)」とは、「クーデター・バイ・テクノロジー」という意味の造語で、当社が展開する製品の統一ブランドです。独創的な技術で医療に革命をもたらしたいという、当社の想いが込められています。

CONTENTS

プロフィール	1
トップメッセージ	2
企業ビジョン	3
沿革とこれから	4
製品ラインナップ	5
研究開発	7
海外	9
生産・製造	9
大研医器の使命	10

独創性にこだわり、 他にない製品を世に問う。

独創性、技術力、そしてマーケティング・パワー。当社のビジネスの特徴は、創造性にあふれる先端医療機器を製販一貫で直接医療現場にお届けできること。そして、その際に得られた“現場の生の声”を、ダイレクトに製品開発に反映できることにあります。

当社は、製品の多くを高度医療分野に特化し、多くの製品で市場のトップ、またはトップに迫る位置を確保しています。どの製品も人命に関わる製品であり、常にニーズが見込めることも当社の強みです。

例えば、一定の速度で薬液を体内に投与できる注入ポンプ「シリンジェクター」。注入ポンプの作動原理に大気圧を利用した画期的な製品で、従来のバルーン式ポンプに付き物だった、縮むほどに注入圧力が不安定になる欠点を完全に克服しました。複数の特許に支えられた他の追随を許さない製品で、シェアトップに迫る勢いを見せています。

このような製品が開発できるのは、医療の最前線で働く、あるいは最先端の研究を手掛ける医師の方々との緊密な協力関係の賜物です。医師の方々の問題意識を知り、解決に向けた知恵をお借りしながら、そして当社の持つメカ、電気、医学などの多彩な技術で製品へと結実させる。さらに、その製品の使用感を医療現場で聞き、改善や新製品開発につなげていく。これこそが、当社の競争力を支える“勝利の方程式”なのです。

当社はいま、東証一部上場を果たし、新たな成長ステージに差し掛かっています。やるべきことは、製品のバリエーション拡大。低侵襲治療分野など、新たな事業領域にも挑戦していきます。海外市場の開拓も重要です。将来的には、海外向け出荷量が国内を上回ることも想定しています。

ただ、時を経ても変わらないものもあります。それは、独創性へのこだわりです。他社には真似できない医療機器を提供し続けることで、人の命を助け、クオリティ・オブ・ライフの向上を図っていくのが私たちのやり方。これからも、「これなくては困る」と言ってもらえる製品づくりに励んでいきます。

代表取締役社長
山田 圭一



Upward Spiral of Value Creation

製販一貫がもたらす、医療現場との “価値創造スパイラル”

当社のビジネスの特徴

- 常に視野を広げ世の中の潮流の先を読む
- すべて顧客目線で捉え、医療現場とタッグを組んだ柔軟な組織で変化に機敏に対応する
- 焦点を絞った製品創りに没頭集中することによって特許に裏付けられた独創的な製品を提供し続ける



挑戦を続けて、四十余年。 さらなる飛躍へ。



1968年11月5日、当社は、医療機器の卸売販売会社として創業いたしました。

人真似をしない製品開発に努めた結果、1990年に真空吸引器「フィットフィックス」の発売にいたり、以後、手術室を中心として病院感染防止関連製品を取り扱う当社のイメージが定着しました。

また、1997年に携帯型ディスポーザブル注入ポンプ「シリンジェクター」の発売を開始したことにより、治療器の分野へ参入しました。

そして、2004年に一般病棟向け真空吸引器「キューインポット」を発売開始し、ガラス製吸引器からの置き換えをさらに進めました。

近年では、2007年にビデオ喉頭鏡「ビデオラリンゴスコープポータブルVLP-100」を発売し、救命救急分野進出への足がかりとしたことを皮切りに、さらに事業分野を拓けるべく、外科・救命救急領域等の新製品開発を進めています。

また、海外委託生産によりコスト競争力を確保しながら、アジアや欧米を中心に海外販路の拡大を進めています。

2009年3月に東証二部、そして2010年10月に東証一部上場を相次いで達成しました。

これをきっかけに、さらなる設備投資や優秀人材の獲得などを積極的に行ってまいります。

“世界に輝く高度先進医療機器メーカー”を目指して、我々の挑戦は続きます。

医療現場に 革新をもたらす、 独創的な製品群。

大研医器のビジネス・フィールドは、日々進化する先端医療の現場です。ここでは、ただ高機能な医療機器を生み出せる、ということだけでは生き残ることができません。必要なのは医療の現場に革新をもたらす独創性。当社は、高度な医療現場から寄せられる“声”を最重視し、特許に裏打ちされた高度な製品を開発し、医療の“質”の向上に貢献しています。

次々と広がる製品ジャンル

Suction

医療配管設備を吸引源とし、血液や体液等の廃液を吸引する非電動式の吸引器です。従来はガラス製の吸引容器が使用されておりましたが、近年は院内感染防止等の目的により、当社製品をはじめとしたディスプレイ容器に置き換わっています。また、手術室にとどまらず、集中治療室、一般病棟、内視鏡室等、様々な場所で使用されつつあります。



クーデック **フィットフィックス**

手術中に排出された血液や体液を吸引し貯溜するディスプレイ吸引器で、吸引終了後に容器内に溜まった排液をフタを開けることなく凝固し、排液による感染を防止します。



クーデック **キューインポット**

一般病棟での使用を考慮吸引器本体は小型化設計されています。凝固剤内蔵の密閉構造で、排液を安全・清潔に焼却処分できます。また、使い勝手と安全を追求し、吸引チューブの接続口を1箇所にして、誤接続を未然に防止します。



クーデック **コネクティングチューブ**

柔軟でキンクしにくいチューブ設計です。用途に応じて選べるコネクタ付きは多様な形状にフィットし、着脱もしやすくなっています。また、バブル（膨らみ）タイプはカット位置で自由な内径が得られます。

Pump

手術後の痛みやがんの痛みを軽減するため、麻酔等の薬液を常に一定の流量で注入します。大気圧やメカトロニクス等の技術を利用することで、理想的な流量精度を実現しました。

特に携帯型のポンプは、電気を使用せず軽量なため、患者のQOL (Quality Of Life) に大きく貢献します。早期離床、入院期間の短縮が期待でき、外来や在宅での使用等、治療の幅も広がります。



クーデック **シリンジェクターPCAセット**

大気圧を利用することで理想的な流量精度を実現したシリンジ型のディスプレイ注入器です。見やすい目盛りで、正確な注入状況と薬液残量が確認できます。また、PCA (Patient Controlled Analgesia) 装置により、現場のニーズに合わせて鎮痛剤の追加投与が可能です。



クーデック **シリンジポンプ**

医薬品を充填したシリンジ（注射器）の押し子を制御することによって精密かつ持続的に医薬品を投与します。特に新生児や重体患者向けの治療で、少量・高濃度の医薬品を長時間に渡って投与する場合に適しています。



クーデック **輸液ポンプ**

医薬品を充填した輸液バッグやバイアル（医薬品容器）に輸液セットを接続し、その輸液セットのチューブをしごくことにより医薬品を投与します。高輝度LEDによる「ナビゲーションランプ」と聞き取りやすい「ボイスナビゲーション」機能が設定入力ミスを大幅に防止します。

Others

救急医療や手術室等で使用する様々な製品を、多数作り出しています。



クーデック **ステリキープII**

手術室、集中治療室、病棟等において医療従事者の衛生的な手洗いに使用する、殺菌水製造装置です。貯水槽や複雑な配管をなくし、蛇口直前でろ過することにより、細菌汚染やバイオフィルムの心配のない無菌水を供給します。また、電気分解を応用して蛇口内で次亜塩素酸ナトリウムを生成することにより、蛇口からの逆汚染を防止します。



クーデック **気管支ブロッカーチューブ**

分離肺換気を目的とし、気道確保のために挿管された各種チューブと組み合わせて使用します。独自のオートインフレーターは、片手操作でカフの膨張が行えます。気管支ファイバースコープとの同時操作が可能です。ジョイントコネクタは、換気を行いながら気管支ブロッカーチューブおよび気管支ファイバースコープを操作できます。



クーデック **ビデオラリンゴスコープポータブル**

気道確保のために施行される咽頭展開による気管挿管を行う際に用いられる咽頭鏡で、先端部にCCDカメラを設置し、気道の入口をハンドル手元のLCDモニタに表示します。手術時の挿管や臨床研修、救急現場での使用に適しています。

信念は“現場主義”。スペシャリスト集団が明日の医療ニーズを捉える。

当社の最大の特徴は、他にはない医療機器を世に送り出す企画開発力。それを支えているのが、強力なスペシャリスト集団の存在と、“徹底した現場主義”という信念です。技術者たちが自ら医療現場に足を運び、医療関係者の“生の声”を聞き、産学連携の名のもと、ともに新機軸の製品を開発するのが当社のセオリー。最先端の医療機器は、こうした取り組みから生まれています。

たとえば麻酔関連分野の加圧式医薬品注入器はその流量の精度を確認するための精密流量検査装置や特殊生産機まで独自に開発して製品化しています。また、感染対策品である真空吸引器は、血液を凝固させる技術や凝固剤を均一に分散させる機能、空気のみを通し液体を通さない特殊フロート弁など、数多くの特許技術の上に完成されたものになっています。

それぞれの開発に要した年月の中で、数知れないトライ&エラーが繰り返されたことはいまでもありません。血液凝固技術、プラスチック精密成型技術、電子回路技術などは、すでに私たち大研医器の多くの基礎技術のひとつとして蓄積され、新たな技術開発の基盤になっています。

機械工作室

機械工作室では試作品やアSEMBリーセンターで使用する製品の組立装置などを作成しています。



電気実験室

電気系の実験や基板設計を行っています。またこの部屋には、オシロスコープなどが備えられています。



バイオ実験室

生物学的試験を中心に、製品に使用される素材の安全性試験や商品の無菌性の確認などを行っています。



商品開発研究所

研究開発の中核拠点は、大阪府和泉市にある商品開発研究所です。研究開発から試作品製作、安全性試験等の機能を備えています。主にこの拠点を中心として、メカトロニクスからバイオ関連まで、幅広い分野の商品開発に取り組んでいます。

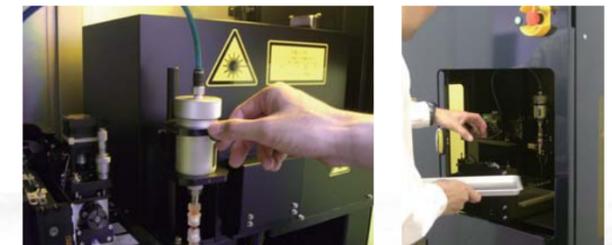
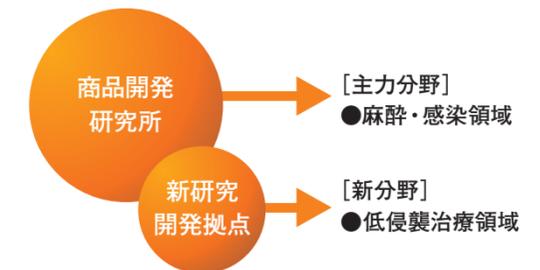


低侵襲治療用具の研究開発拠点を新設

吸引器や医薬品注入ポンプ等、既存分野での技術革新を着々と進める一方で、社会的意義の大きい救命救急領域、高度成長が見込まれる外科領域等、新たな事業領域にも挑戦していきます。

その中でも最大のキーワードは、「低侵襲治療」。低侵襲治療とは、手術・検査などに伴う痛み・発熱・出血などをできるだけ少なくする治療のことで、内視鏡治療やカテーテル治療が代表的です。体への負担が少ないことで患者様の早期社会復帰が可能となることや、入院日数も短縮されるので医療機関にもメリットがあること等から、現在注目されている治療分野となっています。

2011年4月から、関東圏に新しい研究開発拠点を立ち上げました。医療機関や各大学と協力体制を築きながら、早期製品化に向けて、この低侵襲治療に特化したマーケティング・研究開発を進めています。



かながわサイエンスパーク



医療革新の舞台は、世界へ。

治療の在宅化や早期治療の普及は今や医療分野における世界的な課題。当社は、メカ、電気、医学、樹脂加工等の幅広い技術蓄積が生み出す独創的な製品によって、世界的に新たな市場を創出し続けています。

ヨーロッパ・アジアを中心に、積極的な販売活動を行っています。まさにこれから、我々が世界をリードしていくのです。



高品質な医療機器を確実に届けるために。

高品質、安全性、安定的な供給が求められる医療機器。当社は顧客に信頼される製品を提供するため医療機器における品質マネジメントシステムの国際規格であるISO13485等を取得しています。部品の納入から出荷まで、自社設計による様々な検査装置や計測機器等を使用して安全性や品質に関する確認を行っているほか、防菌防汚を徹底したクリーンルームも整備しています。



セル生産方式と自社設計の製造設備で、いかなる注文にもフレキシブルに対応します。



完成した商品は、ガス滅菌処理を経て、性能面や無菌状態等、品質が確保されていることを検査部門が厳しくチェックしています。



社是

我々は現在の医療を見つめ 明日の医療の創造を通して 社会に貢献します。

人の「命」を守りたい。

世界中から「痛み」を無くしたい。

患者様の一日も早い「社会復帰」にお力添えをしたい。

そんな思い・志が大研医器の原点です。

会長メッセージ

天から授かった生命を健康にまっとうしたいと願う。そして、より充実した人生を送りたいと願う。だからこそ人は病気や怪我に見舞われたときに、速やかで確実な回復を望むのだと思います。

この「速やかで確実な回復」は、まず医療機関の先生方に向けられる望みです。お医者さんは、人を速やかで確実に回復させる力があることを、どの患者さんからも期待されるのです。しかし現実には、すべての患者さんが確実に回復しているわけではありませんし、療養が長期にわたることもあります。

お医者さんの「あの時、何か手立てがあれば……」という無念さ。「今ここに、こんな手法があれば……」という歯がゆさ。その手立てや手法をお医者さんと一緒に作り出して行くことで、医療を次の時代へと進化させ、少しでも多くの患者さんの願いに応えたいと私たちは考えています。

新しいものを世に送り出すときには、さまざまな予想もされなかった困難が必ずつきまとい、壁が立ちます。しかし、決して投げ出したりあきらめたりすることはいけません。その忍耐の過程で蓄積されるエネルギーが新たな製品を生み出す原動力、ひいては医療を進化させる力となるのです。

これからも、明日の医療の創造を通して、我々は社会に貢献してまいります。



代表取締役会長
山田 満